ヤマネの巣箱

加古菜甫子

のこぎりを曳いて、金槌をうって、少しずつ作ったヤマネの巣箱たち。

小型齧歯類用の巣箱だ。大きすぎず小さすぎず、なかなか心地よい大きさの巣箱だと、たかが箱ではあるけれど作っているうちに愛着がわいた。

今年６月のはじめ、1才になる巣箱の写真が届いた。うす汚れていて、湿っぽくて１年の時間がたしかに過ぎたことを感じた。去年設置しに行った時、新品できれいな巣箱は林の中では少しだけわざとらしい箱にみえた。それが１年経ってしっかり巣箱になっていた。そして中にはいっぱい、いっぱい巣材が詰まっていた！

林の小さな住人たちに気に入ってもらえたようだった。あぁ、ここにいたんだ、本当にいたんだと思うと写真ごしではあったけれどもその小さな体温を感じそうだった。まだ会ったことはないけど「いる」という感覚に、心臓がくすぐられる気持ちだった。

おそらく私よりもずっと自然に、ずっと必死に同じ時間を生きた小さな彼らのことを本当に、本当に立派だと思った。